

サンゴ礁のない海の「サンゴ」について考える。



近年の長期的な海水温の上昇傾向を受けて、日本沿岸ではサンゴ礁のない温帯域でサンゴ群集の拡大やサンゴ類の分布の北上傾向が進んでいます。このような沿岸生態系の変化は地域社会における人と海との関わり合いの変化にもつながっています。高知をはじめとした四国太平洋岸にはサンゴ礁域と異なる特徴を持つ温帯サンゴ群集が広がっており、サンゴ研究のフィールドとして高いポテンシャルを持っています。また、四国のサンゴ群集は「変化のフロント」にあるサンゴ群集として、国内外の注目を集めつつあります。本シンポジウムでは、温帯のサンゴを取り巻く現状を紹介し、温帯サンゴ研究の意義や価値、望ましい利用秩序の形成について議論を行います。

日本サンゴ礁学会 17 回大会（高知大会）公開シンポジウム

温帯における造礁サンゴ研究 の意義と価値の創造

入場無料

2014.
11/30【日】

時間

9:20 ~ 12:00 (開場 9:00)

会場

高知会館 2 階白鳳 (高知県高知市本町 5-6-42)

<プログラム>

オーガナイザー
新保輝幸、目崎拓真

●挨拶・趣旨説明

●話題提供

- ・ 高知のサンゴ - 南と北の交差点 - 東海大学准教授 横地洋之
- ・ 四国高知、おらんくのサンゴ大自慢！公財) 黒潮生物研究所 主任研究員 目崎拓真
- ・ 造礁サンゴの細胞機能解明 - 細胞遺伝・微細構造・構成分子解析によるアプローチ -
..... 高知大学准教授 田口尚弘
- ・ 沿岸社会における造礁サンゴの利用と保全 高知大学教授 新保輝幸
- ・ 古くて新しい地域資源 - 四国高知のサンゴと地域社会の結びつき -
..... 公財) 黒潮生物研究所 研究所長 中地シュウ

●総合討論 コーディネーター 久保田賢 (高知大学准教授)

